

当センターでは、今年度の地域活性化プロジェクト支援事業として、認定 NPO 法人山形国際ドキュメンタリー映画祭が取り組む ICT 教材を活用した映像教育活動を支援し、子供たちの挑戦意欲や創造性の向上、交流機会の創出による地域活性化に取り組むこととしている。そこで、本稿では、同法人の活動概要を紹介する。

世界と人に出会う映画の祭典 山形国際ドキュメンタリー映画祭

地域に根ざした映画文化が脈々と受け継がれてきた山形。1989年10月、山形市施行100周年記念事業として、第1回山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催されました。当時**アジアで初の国際ドキュメンタリー映画祭**と



山形国際ドキュメンタリー映画祭 2023
表彰式後のフェアウェル・パーティー

して、大きな注目を集めました。戦後の日本ドキュメンタリー映画界を牽引し、山形市に隣接する上山市を拠点にドキュメンタリー映画制作を続けていた故**小川紳介**監督(1935-1992)が、この準備段階から深く関わり、氏の呼びかけに応えた県内・県外各地の有志が映画祭の運営に参加。こうした市民の積極的な活動が、行政と市民が力を合わせて成功を目指す、山形映画祭の土台となりました。

山形市とともに映画祭を運営してきた実行委員会は、2006年に市から独立、翌年NPO法人となり、映画祭主催団体として新たなスタートを切りました(2013年認定NPO法人化)。2017年には、この映画祭の存在と映像文化を核とした創造的なまちづくりが認められ、山形市は**ユネスコ創造都市ネットワークに「映画」分野で加盟認定**されています。

2年に一度、奇数年に開催されるこの映画祭は、世界の多様な作品を上映するだけでなく、人々の交流を通して未来に向け開かれた国際的な人的ネットワークを育むことを目的としています。**参加者による上映後の熱く鋭い議論はヤマガタ名物**であり、その中から監督同士の新たなコラボレーションのタネが生まれることもしばしば。まさに、この山あいの緑豊かな町で生まれる、最新の映像表現と

人との出会いの面白さこそが、**毎回およそ22,000人を超える全国からの多数の参加者、そして世界の多くの映画人を惹きつける魅力の源泉**です。

市内ホテルは早々に満室となるなど、山形市や近隣地域への毎回の経済効

果も大きなものとなっています。

上映作品にはここ山形でしか見られない新作も多く、セレクションに定評のあるインターナショナル・コンペティションとアジア千波万波の二つのコンペティション部門には、世界各国の映画祭のみならず、新たな商業公開作品を探す国内の多くの映画関係者が注目しています。また両部門で大賞に輝いた作品は、翌年の米国アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門への無条件エントリーの道が開かれています。

また、本法人は2年に一度の映画祭開催だけでなく、通年で優れた映画を届ける**上映活動**や、映画祭上映作品の**保存と貸出**、東日本大震災の記録映画を**収集・保存する「311ドキュメンタリーフィルムアーカイブ」**の運営、小中学生に向けた**映画ワークショップ**の開催や高校生チーム「**ドキュ山ユース**」の活動サポートなどの映像教育も積極的に行なっています。

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2023
2023年10月5日[木]ー12日[木]開催
上映作品数：129本
作品総応募数：2,134本(120の国と地域から)
入場者数：22,081人
ゲスト：137人 プレス：268人
ボランティア：242人

山形国際ドキュメンタリー映画祭2025

YAMAGATA International Documentary Film Festival

10月9日[木]—16日[木]

www.yidff.jp

会場：山形市中央公民館、山形市民会館、フォーラム山形、
やまがたクリエイティブシティセンター Q1 など(予定)
主催：認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭 共催：山形市



世界各地より応募された中から約15作品を上映する**インターナショナル・コンペティション**、長短編問わずアジア圏の作家・作品を紹介する**アジア千波万波**の2つのコンペティション部門のほか、さまざまな特集上映を行います。

優れた日本のドキュメンタリー映画を世界に発信し、国内未発表の作品にも光を当てる**日本プログラム**、BGMも台本もナレーションもインタビューもなく、大統領執務室からロックコンサート、学校、警察、軍隊などあらゆる社会空間に自在に出入りして世界を驚嘆させた、60年代アメリカでの実験的な映画制作の試み**アメリカン・ダイレクト・シネマ**の特集、パレスティナという土地に根差した人々の記憶に焦点をあて、破壊と殺戮の続く現在地から歴史を辿り多様な視点で制作された作品を上映することで、未来への道行きを考える**パレスティナ—その土地の記憶**といった多様な特集を同時開催します。



アメリカン・ダイレクト・シネマ特集(仮)で上映される『予備選挙』の撮影風景
(C)DrewAssociates

また、東北に根差したプログラムも上映します。

東日本大震災に端を発する作品を特集するとともにある**Cinema with Us 2025**は今回で8回目。発災から15年目となるなか生まれた311関連作品に加え、昨年地震と豪雨に見舞われた能登半島における災害記録

の試みを紹介します。被災地能登における記録を通じた支援活動においては、東日本の教訓が十分に生かされているとは言い難い状況にあります。本プログラムでは東北と能登、ふたつの土地と時間を結んで語り合います。山形にまつわる映像文化を紹介する**やまがたと映画**は、映画祭草創期の記録映像や映画、発掘されたホームムービーを今見つめなおします。**街を見つめる人を見つめる—ユネスコ創造都市の世界2025**は、山形市が加盟認定されたユネスコ創造都市ネットワーク「映画」分野の加盟都市から公募しセレクトした7作品と、山形の伝統文化を題材にした「映像で山形ルネッサンス」4作品を上映します。

他にも、ドキュメンタリー映画を通じて若者が批評的な視点を育み、映画を観て語ることの重要性を体験するワークショップ型の映画教育プログラム**未来への映画便**、撮影・編集途上にあるプロジェクトを公募、粗編集版の上映と公開対話を行い、より豊かな映画の誕生を模索する**ヤマガタ・ラフカット!**など、参加型のユニークなプログラムも開催します。

映画鑑賞のあとは、交流の場「**新・香味庵クラブ**」で、映画制作者も観客もボーダレスな交流をお楽しみください。



夜は香味庵で逢いましょう